洋上アルプス

NO. 202

平成24年1月5日
林野庁屋久島森林環境保全センター発行

鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1
TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333
ホームページアドレス http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/syoukai/hozentop2.html

屋久島世界遺産地域科学委員会及びヤクシカワーキンググループの開催

十二月十七日から翌十八日にかけて屋久島世界遺産地域科学委員会（以下、委員会）及びヤクシカワーキンググループ（以下、シカWG）が屋久島町にある屋久島環境文化村センターで開催されました。

まず、委員会に先立って十七日の午後からシカWGとして、関係機関による取組状況やヤクシカの適正密度と目標、個体数管理方策、さらに鹿児島県特定鳥獣保護管理計画（素案）について議論を行ったところです。

シカWGでは個体数管理は地域に応じた目標値とし、生態系への影響を勘案した管理を行うためのモニタリングの充実を図ることとしているところです。

委員からは、シカの適正管理目標数値だけが一人歩きしないよう注意することや数値はあくまでも暫定値であり、モニタリングを継続的に実施しながら、目標値を変動していくべきとの意見がありました。

また、鹿児島県の特定鳥獣保護管理計画とは連携して取り組むこととし、地域毎に生態系保全の観点だけでなく農林業への被害状況を加味した数値目標が必要であるとの意見もあり、今年度中の策定に向けシカWGでの議論を踏まえた実効性のある計画となるよう、今後、鹿児島県との整理を行っていきます。

翌十八日の午前中には、今年度第二回目の委員会を行い、これまで議論を重ねている屋久島世界遺産地域管理計画の策定に当たり、委員との最終調整を行い、概ね合意事項としながらも、「環境教育、情報の発信」に関し、屋久島憲章についての記述の充実を求められたところです。また、次回の見直し時には、遺産地域の周辺にバッファゾーンを設けることや、屋久島の歴史的な背景について、踏み込んだ記載とすべきとの意見がありました。今後は、委員会での意見を踏まえ、三月には遺産地域管理計画を策定することとし、来年二月の屋久島での地元説明会の調整を進めることとしています。この他、シカWGでの議論の経過や、今後、委員会で議論すべき事項として、遺産地域を含めた利用に関し、議論していくことを確認し、また、屋久島における研究者のコミュニティー作りを検討することとなりました。

午後には、国際森林年と来年二月に霧島屋久国立公園から「屋久島国立公園」が分離されることを記念し「屋久島世界遺産シンポジウム」「屋久島における調査研究・モニタリングの成果報告会」と「国内の世界自然遺産におけるエコツーリズム」の記念講演も併せて行われたところです。

シカWGの様子

屋久島生態系モニタリング

屋久島南部の植生垂直分布調査（平成２０年度調査）

※ 標高1634m（烏帽子岳山頂）の植生

烏帽子岳山頂は、烏帽子岩から50m程度北東方向に登った場所である。山頂付近（山頂から20～30m範囲内の尾根上）は、花崗岩露岩上に生育する風衝樹形の矮小林で、樹高2m以下の低木草本類が多い。出現する全ての種が、分布上貴重な植物である。

［亜高木層］（樹高2～3m程度）ｽｷﾞ･ﾂｶﾞ･ﾔﾏｸﾞﾙﾏ･ｻｸﾗﾂﾂｼﾞ･ﾔｸｼﾏｼｬｸﾅｹﾞ･ｼｷﾐなどが多い。

［低木層］（樹高1～2m程度）ﾔｸｼﾏｼｬｸﾅｹﾞ･ｻｸﾗﾂﾂｼﾞ･ｱｾﾋﾞ･ﾔｸｼﾏﾎﾂﾂｼﾞ･ﾊｲﾉｷ･ﾐﾔﾏﾋﾞｬｸｼﾝ･ﾔｸｼﾏﾐﾂﾊﾞﾂﾂｼﾞ･ｻﾂｷなどが生育している。

［草本層］（樹高1m未満）ﾋﾒｶｶﾗ･ﾋｶｹﾞﾉｶｽﾞﾗ･ｷｯｺｳﾊｸﾞﾏ･ｼｼｶﾞｼﾗ･ﾔｸｼﾏﾏﾏｺﾅ･ｱｸｼﾊﾞﾓﾄﾞｷ･ｵｵｺﾞｶﾖｳｵｳﾚﾝ･ｺﾊﾞﾉｲｼｶｸﾞﾏなどが多く見られる。

［群集および特徴的な出現樹種］ｽｷﾞ-ﾔｸｼﾏｼｬｸﾅｹﾞ群集。ﾐﾔﾏﾋﾞｬｸｼﾝﾝ･ﾔｸｼﾏﾎﾂﾂｼﾞ･ﾔｼｬﾌﾞｼ･ｱｽﾞｷﾅｼ･ﾅﾅｶﾏﾄﾞ･ﾋﾒｶｶﾗ･ｵｵｺﾞｶﾖｳｵｳﾚﾝなど、垂直分布上の貴重な植物が多い。

平成二三年度ヤクタネゴヨウ連絡協議会 屋久島支部会の開催

屋久島と種子島のみに自生し、絶滅危惧種に指定されているヤクタネゴヨウを保護し、適切に管理していくため設置している「ヤクタネゴヨウ連絡協議会屋久島支部会」の今年度の会議を開催したところです。

これは、関係機関（国、県、町、研究機関、NPO等）による活動報告や松枯れの実態調査等を行い、連携して松くい虫による被害木の除去や被害の防除に努めているところです。

屋久島では松くい虫の被害は鎮静化していますが、被害が拡大してからでは遅く、早期発見・早期防除に取り組む必要があります。

ヤクタネゴヨウ連絡協議会
屋久島支部会議の開催

このため、皆さんにおかれても、松枯れを発見されたら町農林水産課、森林管理署、ヤクタネ調査隊に情報提供をお願いします。

熊毛地区植樹祭 「未来へつなごう命の水と緑」

十一月二十二日に熊毛流域における植樹祭が屋久島町で開催され、会場は小瀬田森林事務所部内の国有林にて実施したところです。

今年のテーマは、植樹祭に参加した小瀬田小学校の児童が考えた『未来へつなごう命の水と森』が最優秀賞に選ばれ、豊かな森林が育つよう地元児童も含め多くの方々の参加により植林を行いました。参加した児童達は、将来、大きく育った木を見ることをとても楽しみにしていました。

屋久島の植物

ハマダイコン
（アブラナ科）

全国の海岸に生育する越年草で、大根の野生化したものと考えられている。屋久島でも海岸の砂地によく見られる。花は淡紅紫色で花弁の長さは約二cm、花の後に長さ五～八cmのさや状の実ができる。

花期一～四月

年頭挨拶

復興と再生の中で～美しくすこやかな森林を未来へ

屋久島森林管理署長　米田　雅人

平成二十四年の新年を迎え、謹んでお慶び申し上げます。旧年中は皆様から格別のご支援・ご協力を賜り、心から御礼申し上げます。

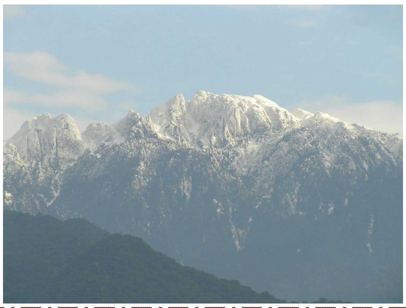
昨年は、三月の東日本大震災とそれに伴う原発事故をはじめ、九月に近畿地方などへ被害をもたらした台風など、日本各地で災害が相次ぎました。

特に東日本大震災では、自然の脅威を見せつけられるとともに、日頃の災害への備えや災害発生後の対応の重要性を認識させられました。被災地の一日も早い復興を願わずにはいられません。

さて、森林・林業施策では、平成二十一年に林野庁が策定した「森林・林業再生プラン」を反映した「森林・林業基本計画」が、昨年七月閣議決定されました。平成三十二年までに木材自給率５０％を達成するとの目標に向けて、準フォレスターの育成、路網の整備、森林計画の策定などの取組が動き始め、国連が定めた国際森林年とも重なって、昨年は森林・林業再生元年として節目の年となりました。

屋久島森林管理署では昨年八月に民有林・国有林の関係機関で「屋久島地域森林整備推進協定」を締結し、森林共同施業団地において連携して間伐実施や間伐材の有効利用などに取り組んでいくこととしました。

そのほか、屋久島森林管理署では、世界自然遺産区域など貴重な森林の保全管理、農林業や植生へのヤクシカ被害対策として職員全員によるくくりワナを使った有害鳥獣捕獲、間伐などの森林整備、「地杉」や土埋木の有効活用、防災機能を高める治山事業など、引き続き関係の皆様と協力しながら取り組んで参ります。



東日本大震災の復興が進んでいる中、森林・林業も再生に向けて施策が本格化していますが、屋久島の美しくすこやかな森林を未来に引き継いでいくよう、持続可能な森林の管理経営を行いながら地元の発展にも貢献していく考えですので、国有林野事業に対しまして今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が屋久島町にとって輝かしい年になり、屋久島町民の皆様が充実し心晴れやかな毎日を過ごされますようご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

「森林・林業基本計画」（閣議決定）

1　森林の有する多面的機能の発揮に関する施策

面的なまとまりをもった森林経営の確立、多様な森林への誘導、生物多様性の保全等を推進。

2　林業の持続的かつ健全な発展に関する施策

森林経営計画の作成とこれに基づく効率的な施業の実行、意欲ある者への長期的な施業の委託、フォレスターなど森林・林業に必要な人材の育成等を推進。

3　林産物の供給及び利用の確保に関する施策

効率的な加工・流通体制の整備、住宅の木造・木質化や公共建築物等の需要拡大による木材利用の拡大を推進。

4　国有林野の管理及び経営に関する施策

公益重視の管理経営を一層推進するとともに、国有林野の組織・技術力・資源を活用して、林業技術の開発普及、人材育成をはじめとした民有林へのサポートなど我が国の森林・林業の再生に貢献。

※　森林及び林業に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

・　官民一体となって、施策を総合的に推進するとともに、国民視点に立った施策決定の実現。